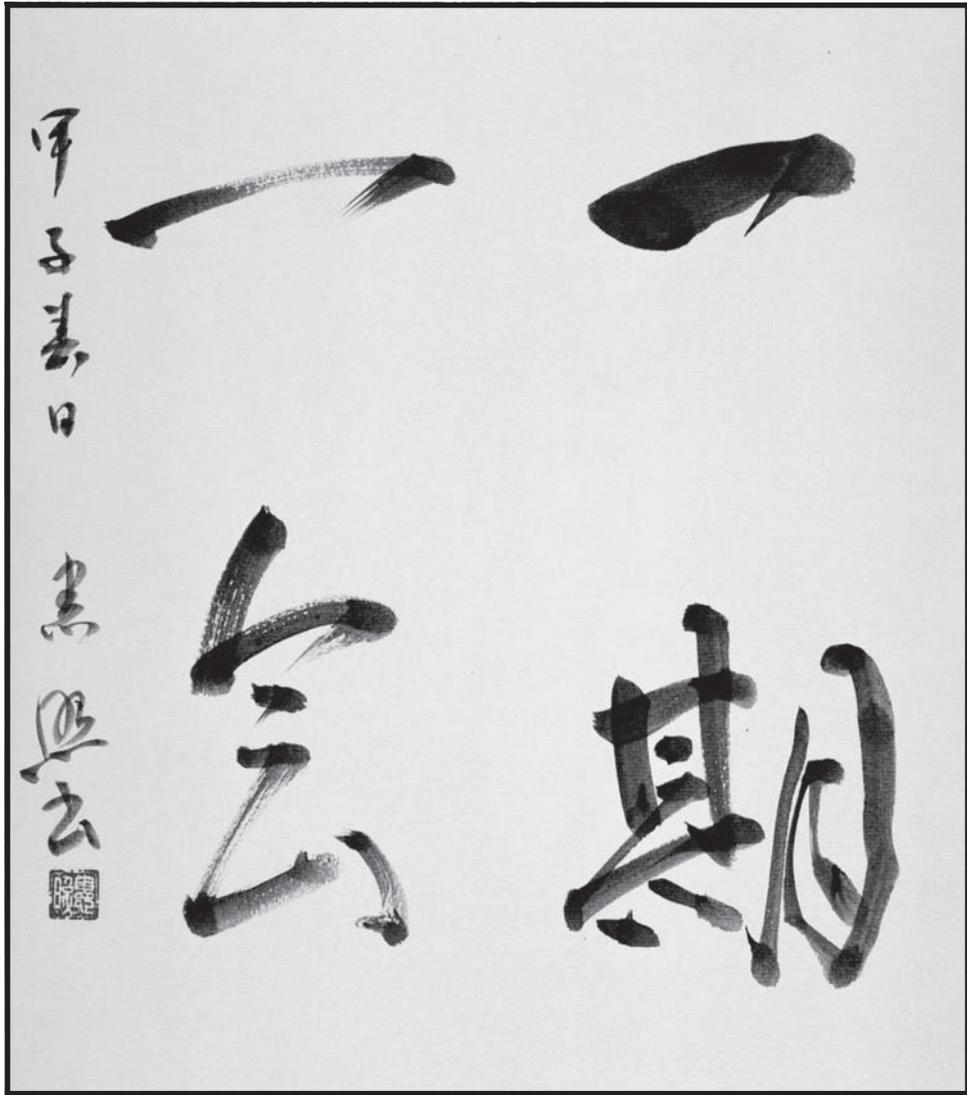


色紙を書く (3)

締切り 三月二十五日 (必着)

奥村憲照先生書



〔読み〕 一期一会

〔大意〕 一生に一度だけの出会い。

※甲子は一九八四年の干支、今年は乙未です。

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。
◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。
◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

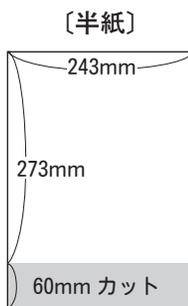
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部 左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



▼硬筆部 右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×二二一mm)になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具(フェルトペン・マッチ棒・割り箸等)がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

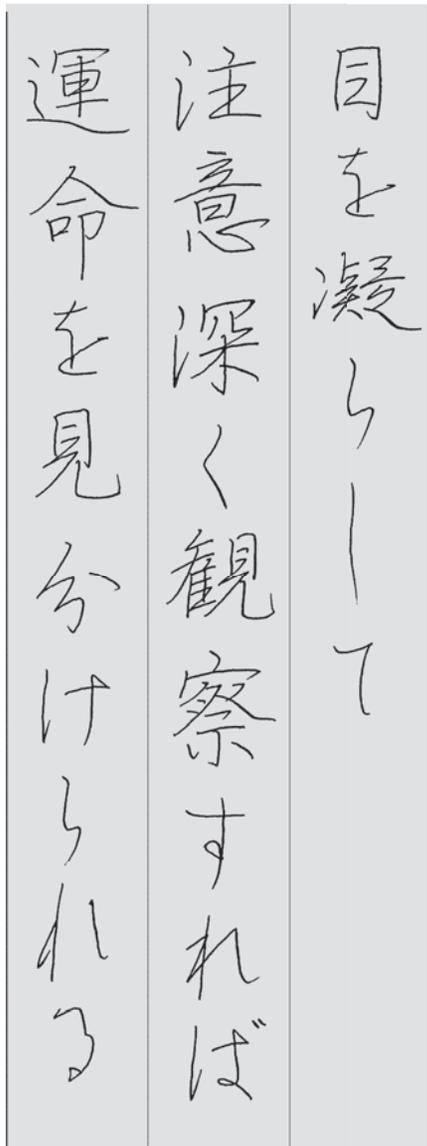
新入から1級まで

〔解説〕



◎行書体は動きのある暢達な線で書くのが大切。審査して常々思う事だが、氏名欄を案外粗雑に書く方が多い。本文に合わせた書体で書く様に心得て下さい。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

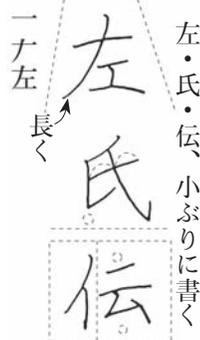
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

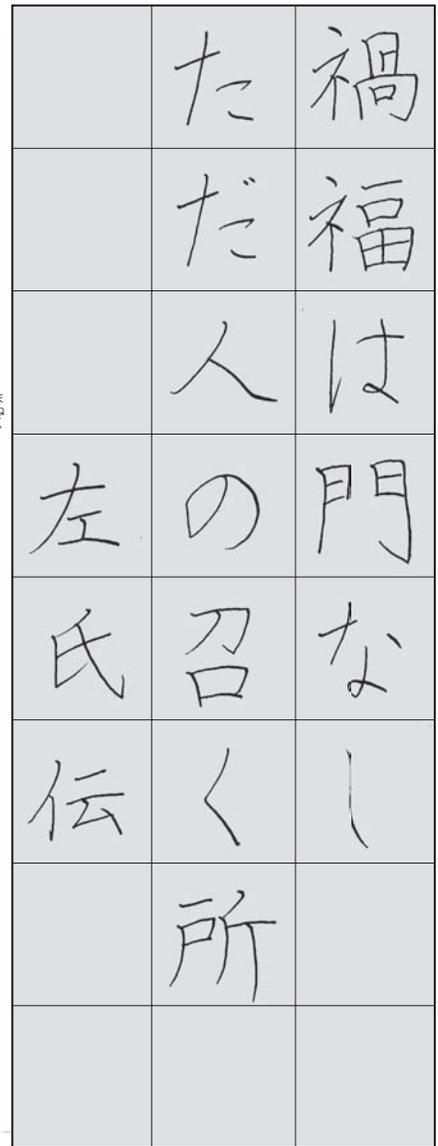
〔解説〕



まね
召||招



左・氏・伝、小ぶりに書く



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★禍福は…(書体||楷書)

左氏伝||中国五経の一つ「春秋」の解釈書。左伝ともいう。

このことばは、不当な処遇に腹を立て、ふてくされて勤めを休んでいる人を戒めたものです。禍も幸福も特別な門があって入ってくるわけではありません。不幸せを何かのせいにして怨むのではなく、前向きに努力を重ね自らで幸福をかちとりたいものです。

◆4月課題予告(行書)

行動がすべてだ
栄誉に価値は無い

ゲーテ

★目を…(書体||行書)

フランシス・ベーコン(一六六〇〜一六二〇)

イギリスの哲学者・政治家

運命はままならぬものですが、目を凝らして注意深く観察すれば、ある程度は見分けられるといっています。

災害も同様でしょう。避けられないものかもしれませんが、備えがあればよりよく対処できるに違いありません。

◆4月課題予告(楷書)

一人断らずべからず

必ず衆と共に
宜しく論ずべし

▼教範・書範||行草または草書

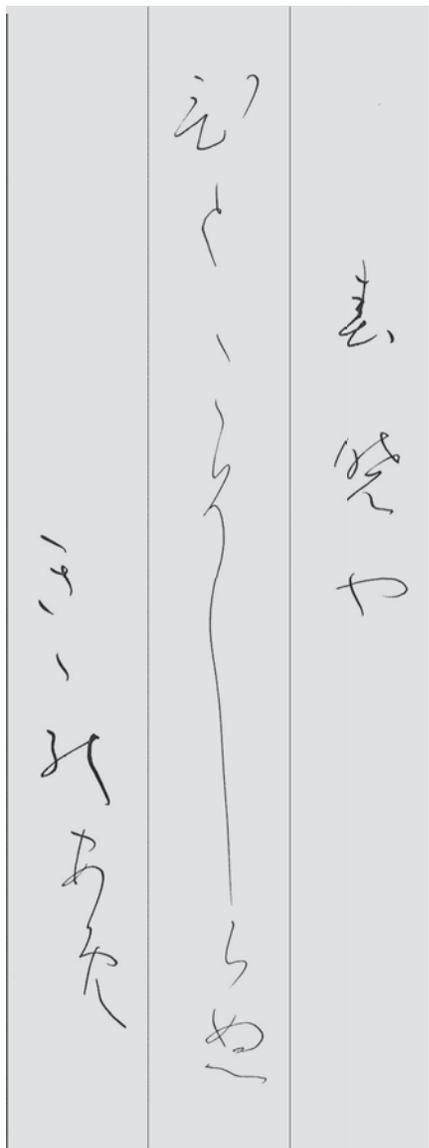
▼師範||行草

一般部かな課題

締切り 3月25日(必着)

準初段から六段まで

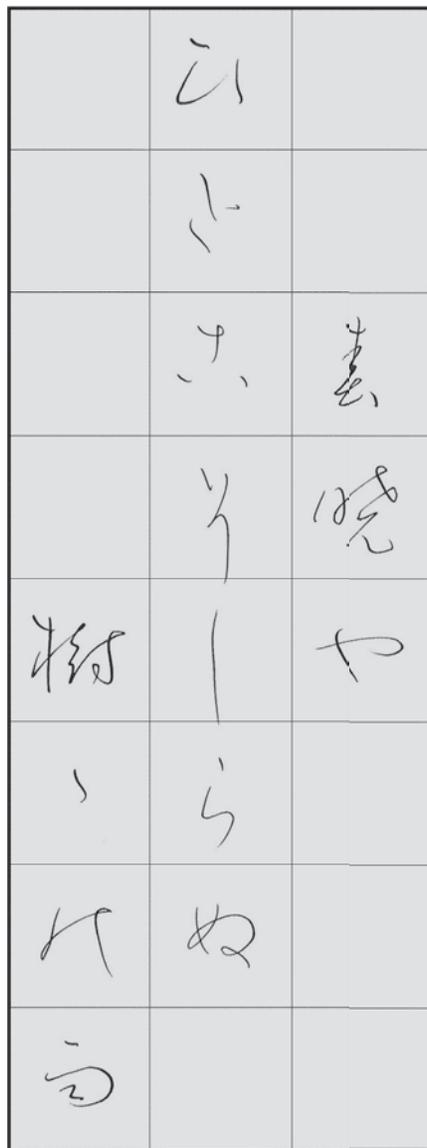
新入から1級まで



春曉^{飛と}や人^{曾し}こそ知らぬ^{怒き}樹^{能あ}の雨^免

春曉^{ひと古曾し}や人^能こそ知らぬ^能樹^能の雨^能

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

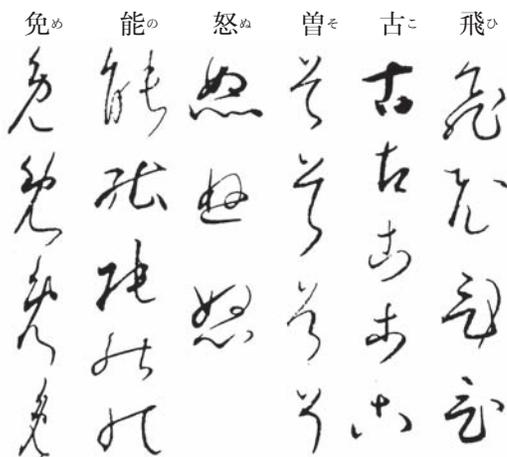
▷用紙=本会級位用紙

春曉^{しゅんげう}や人^{ひと}こそ知らぬ^き樹^きの雨^{あめ}

(日野草城)

【句意】春の夜明け方、人々はまだ深い眠りの中にある。しかし、雨は静かに木々に降りそそいで、木々の肌をしっかりと濡らしていることである。

〔古筆参考〕



◆4月課題予告

山国^{やまくに}の蝶^{てふ}を荒^{あら}しと思^{おも}はずや

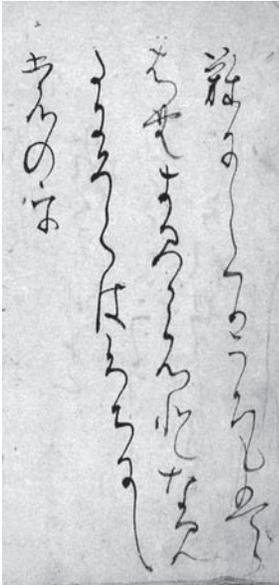
(高浜虚子)

締切り 三月二十五日(必着)

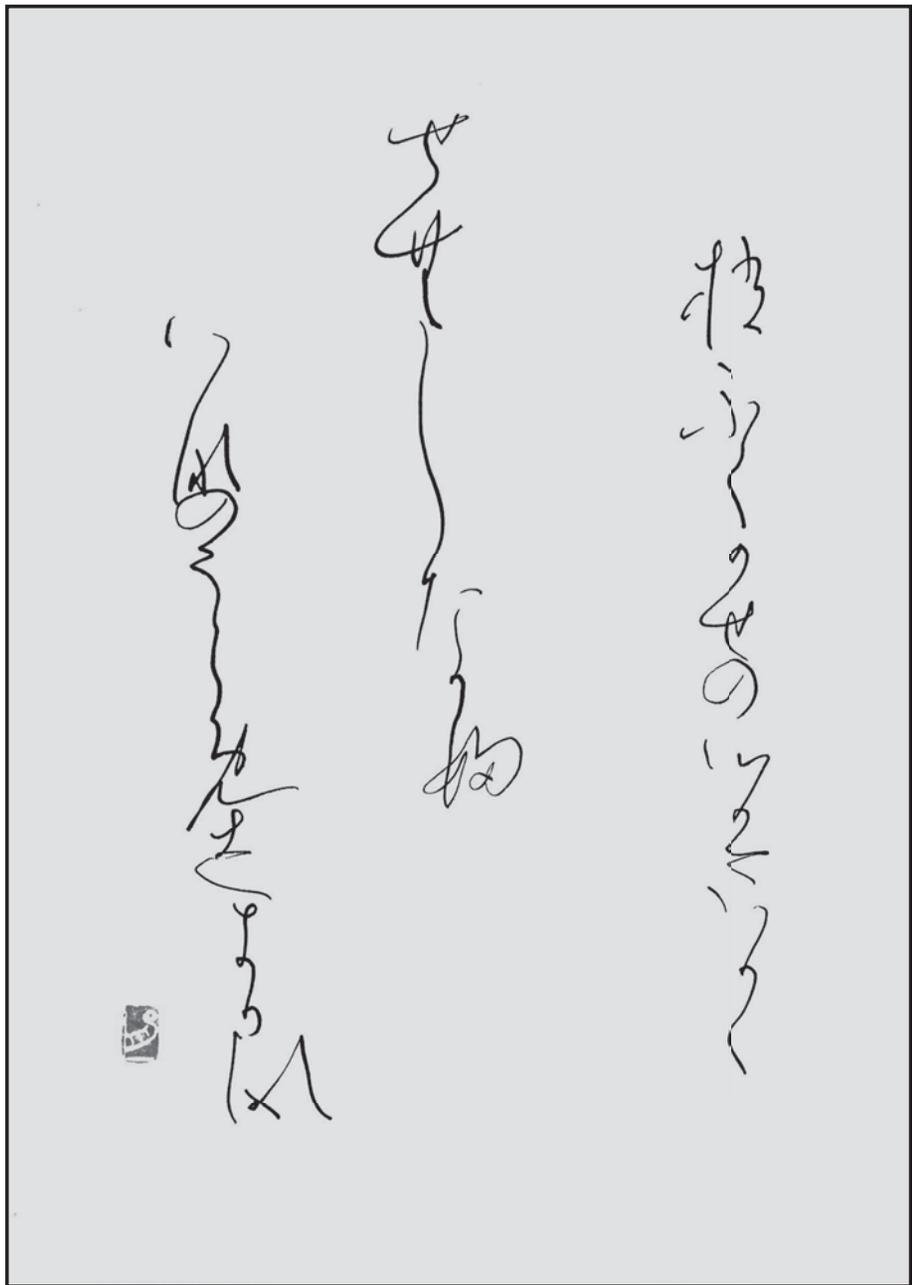
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

いちじょうせつしやうしゅう
一条撰政集



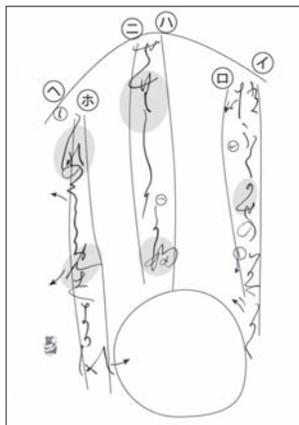
離尔 なるに 可 ちもはら
者無支見 是むきみこふとなみ
多尔曾 だにそで はくちにし
震平 ちんの字 ものを



梢可なく風無の心可はいか無がせん
したが可ふ花可の恨可め可し可き可かな

〔歌意〕 梢を吹く風の心は、どうすることもできはしない。でもその風の心のままに散ってゆく花は何とも恨めしく思われるよ。

〔出典〕 山家集(新潮日本古典集成)
〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、
それぞれ呼応。
- ①と②、①と③、②と④の行のふくらみ大切。
- ↙の方向大切。
- の行の密大切。
- の点の位置大切。
- の間大切。

◆4月課題予告

山おろしに乱れて花の散りけるを
岩離れたる滝と見たれば

締切り 3月25日(必着)

主人の定年後の楽しみに、共通の趣味があればと、一緒に園芸教室に通い始めました。猫の額ほどの小さな庭ですが、大好きな野菜や花をたくさん育てようと、二人であれこれ計画を立てています。

主人の定年後の楽しみに、共通の趣味があればと、一緒に園芸教室に通い始めました。猫の額ほどの小さな庭ですが、大好きな野菜や花をたくさん育てようと、二人であれこれ計画を立てています。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

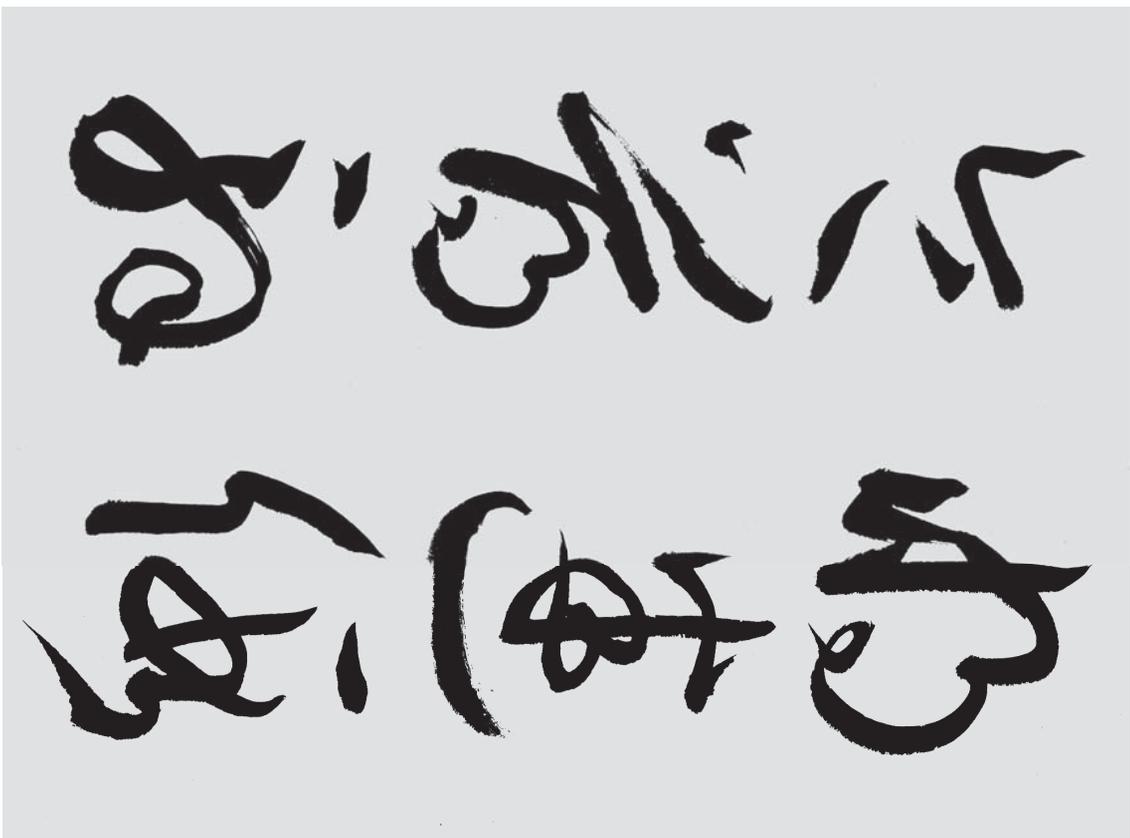
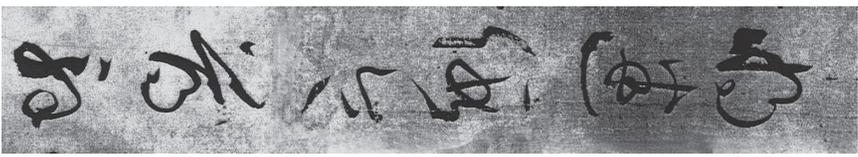
明治初期, 文明開化のシンボルは
紙巻きタバコを吸うことだった。

大分県杵築市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 3月25日(必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨



新入から1級まで(楷書)

須田一葉書

【出典】書譜 (687) 【筆者】孫過庭 (648?~703?)

【読み】將に迷わんとす。仮令薄か(草書を)解し

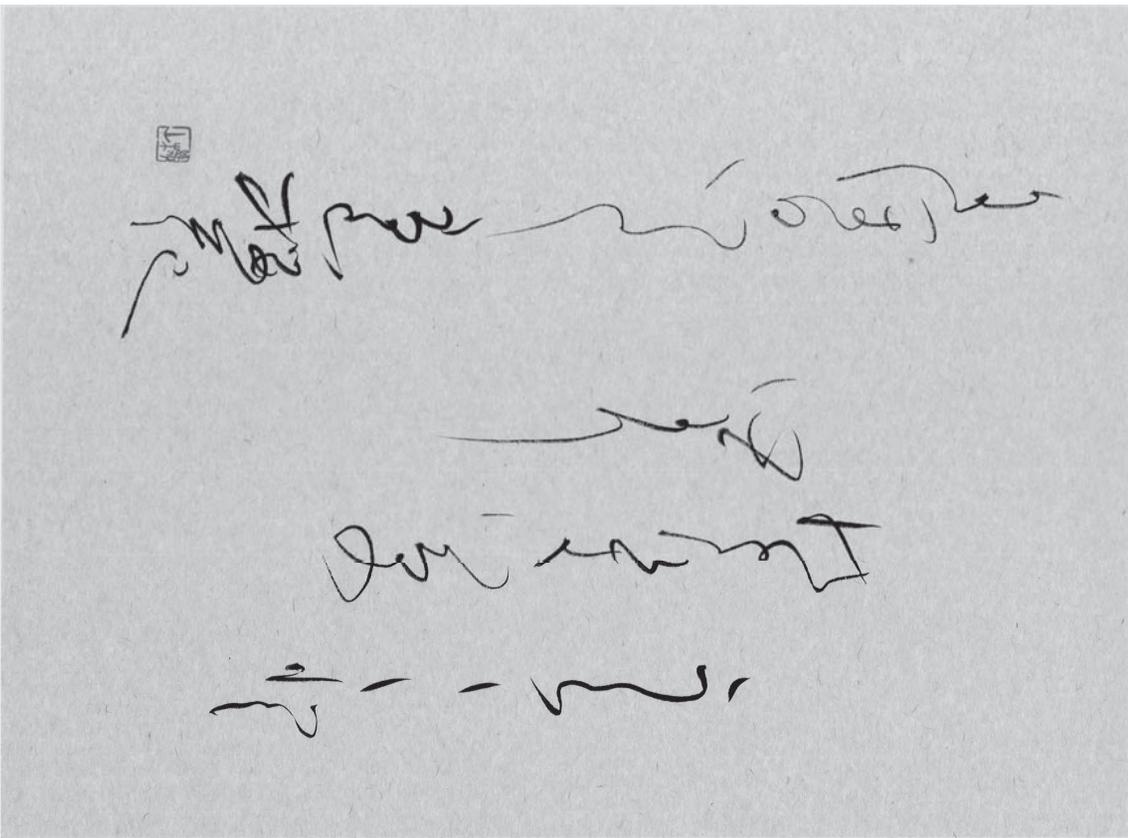
※書譜の特徴「節筆」が明快な部分です。節筆を意識して書きました。

【読み】道守れば天の知る有り

【大意】人として道を守れば天が知る、故に幸福が報いてくる。

一般部毛筆かな課題

締切り 3月25日(必着)

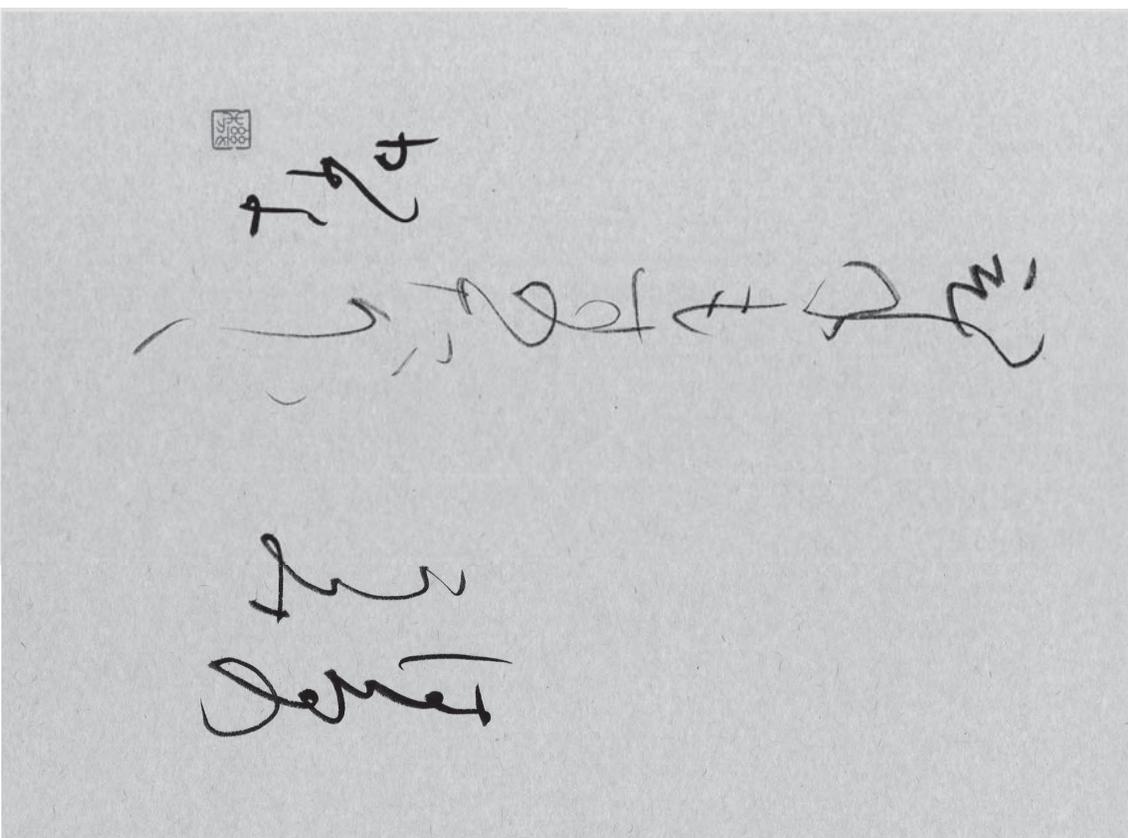


準初段から師範まで ■ 而課題とも文字の変換 ちらし方は自由です。

うらうらのどけき春の心より
ハ、發能 介、又ハる
ホ、日 多
 にはひいでたる山桜花

【出典】 賀茂真淵

【歌意】 うらうらのどけかな春の心が、そのままめでたく咲き出していい
 ような山桜の花よ。



新入から1級まで

浅井機山先生書

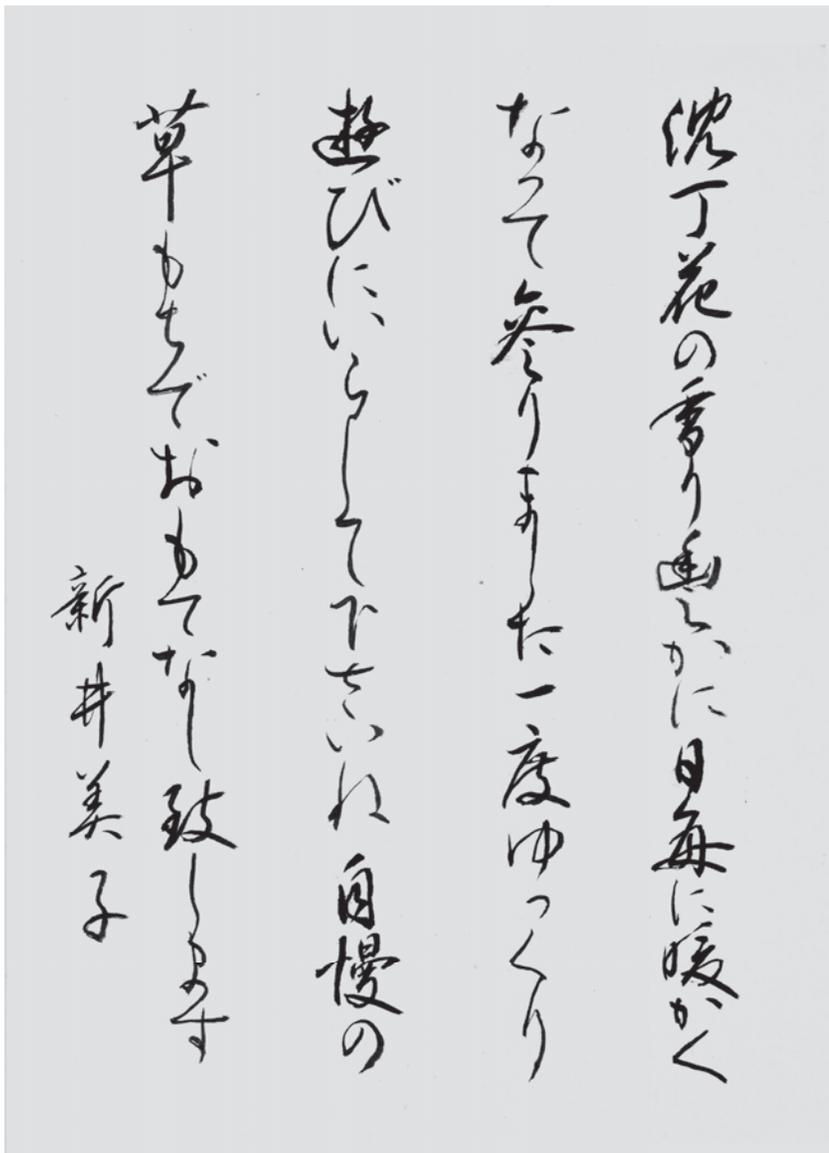
春の海終日のたりくかな
はる うみ せいの たりく かな

【出典】 与謝蕪村

【句意】 のたりのたりは、大きくゆるやかにうねる様の形容。のどかな
 春の海は一日中のおんびりとゆるやかに揺らうっていることよ。

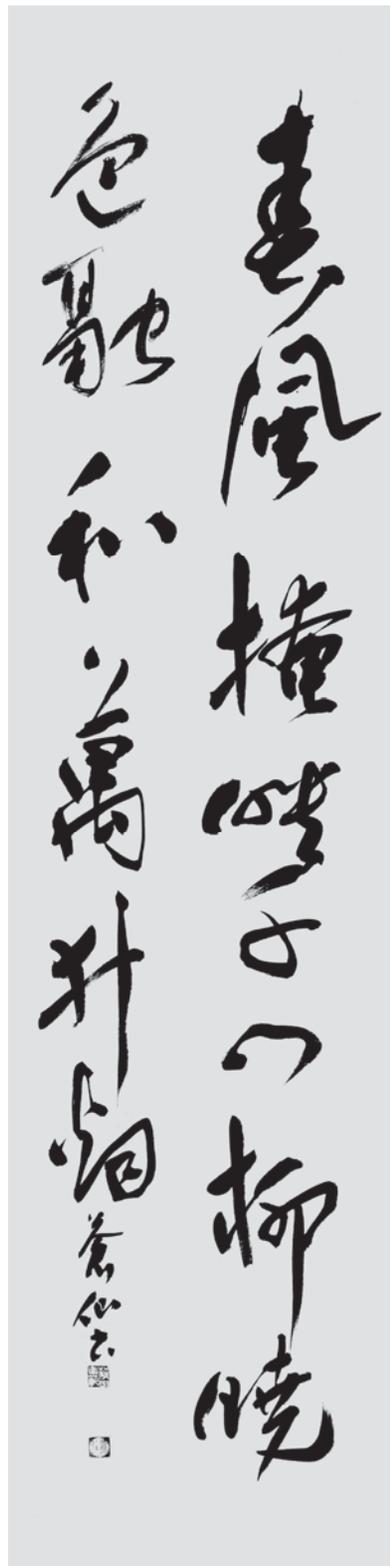
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 三月二十五日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻 田 蒼 仙 書

〔条幅解説〕起筆に穂先をすんなり入れないで、上か左に少し押し込込んで、穂先がちよっぴりねじれの状態で送筆しています。そして鋒のねじれを生かすようにしています。

沈・丁花の香りに豊かに日毎に暖かく
な・つて参りました 一・度ゆ・つくり
遊・びにいらして下さいね 自・慢の
草もちぞおもてなし致します

() (自分の氏名)

・印で曇つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

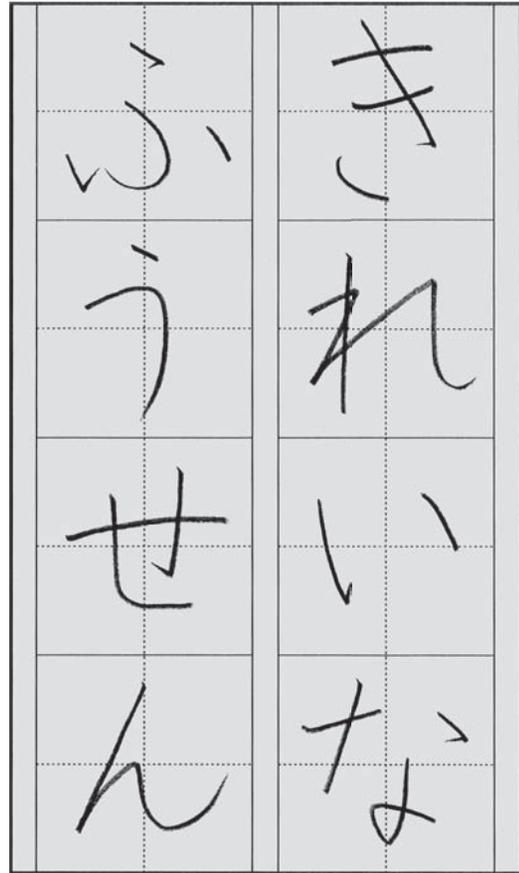
〔大意〕春風吹きて多くの家の柳は緑色あい映じ、夜明けの景色は和らいで多くの家に炊烟が起る。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

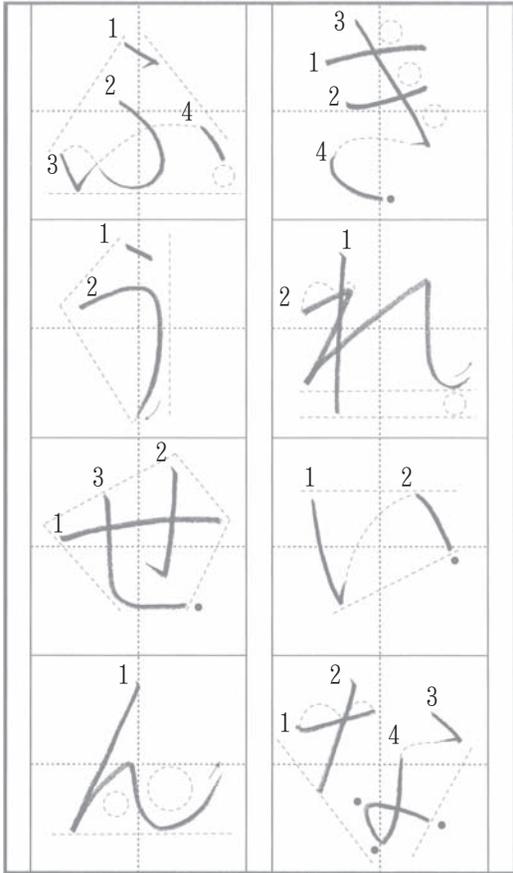
春風掩映千門柳
色融和萬井烟

よ
う
年



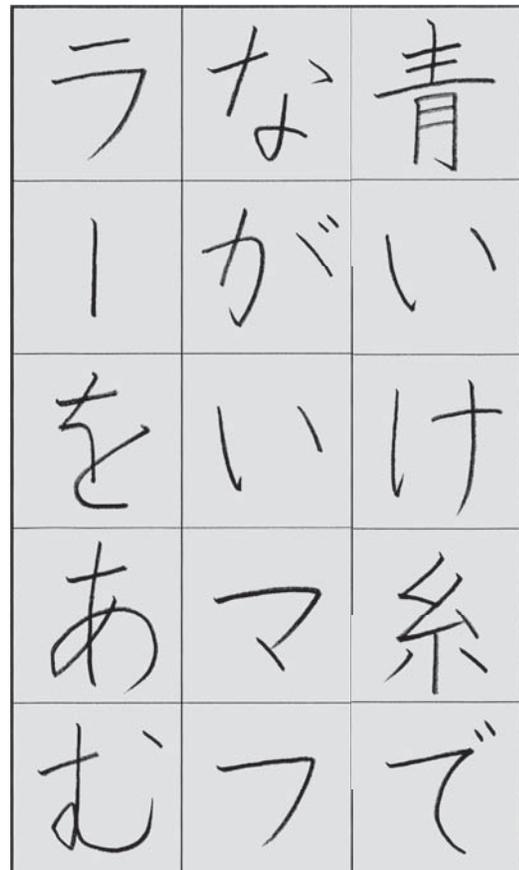
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

小
一
年

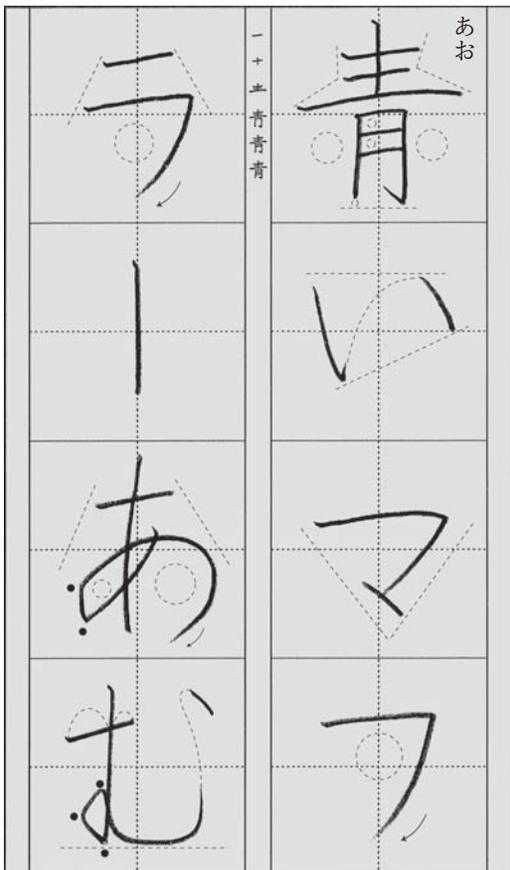


(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準初段以上

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

フカ	力	ちから	かんが	考
	つ	一 二 三 考	え	
	け	まな	学	
	る	二 三 学 学	ぶ	

新入〜1級

み	て	自
に	学	分
つ	ぶ	で
け	力	考
る	を	え

小二年

準初段以上

	い	お
二 三 動 動	動	り
一 二 三 物 物	物	紙
	を	使

新入〜1級

動	て	お
物	い	り
を	ろ	紙
作	ん	使
る	な	つ

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

ご	学
み	校
拾	周
い	辺

新入1級

の	で	生
ご	学	徒
み	校	み
拾	周	ん
い	辺	な

準初段以上

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

送	感
別	謝
曲	気
歌	持

解説(よく見て習いましょう)

の	ち	感
曲	こ	謝
を	め	の
歌	送	気
う	別	持

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

(全員)

小五年

(全員)

〈用具〉自由(黒色に限る)

一丁工	工	コウ	災	サイ
一丁事	事	ジ	害	ガイ
一丁困	困	コン	復	フツ
一丁難	難	ナン	旧	キユウ

解説(よく見て習いましょう)

の	工	災
連	事	害
続	は	の
で	困	復
す	難	旧

小六年

(全員)

◎お手本はつけペン使用

一	品	卒
ル	で	業
を	才	の
贈	ル	記
呈	ゴ	念

中二・三年

(行書)

真	に	私
を	家	の
撮	族	誕
つ	で	生
た	写	目

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 しょうむら のり か 庄 村 紀 香 書

遊 <small>あそ</small>	楽 <small>たの</small>	み	泳 <small>およ</small>	春 <small>はる</small>
ん	し	ん	ぐ	の
で	そ	な	メ	小 <small>お</small>
い	う	で	ダ	川 <small>がわ</small>
る	に		カ	を
よ				

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 3月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 しみず ちせん 清 水 智 泉 書

鳴 <small>な</small>	カ	冬 <small>とう</small>	野 <small>の</small>	雪 <small>ゆき</small>
い	エ	眠 <small>みん</small>	原 <small>はら</small>	解 <small>と</small>
て	ル	か	で	け
い	が	ら	は	し
る		覚 <small>さ</small>		た
よ		めた		

◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年よせい〜しにねん小二年
玉たま樹き小しょう華か書



小五
 の送
 曲別

紙お
 小三
 り

送

紙

別

み

曲

拾

小四
 拾ご
 いみ

小三こ小五ご年
 水みづ野の香か竹たけ書

中二・三
 贈呈 記念品

小六
 復旧 工事

小六〜中二・三年
 奥村暢之書

誕 復 贈 事 呈 私

中
 生日 私の誕